

入浴闘争に敵対する動労革マル 『日刊動労千葉』の真実の暴露に悲鳴

し、国鉄労働運動破壊！20万人台体制大合理化を強行せんとする攻撃に、国鉄労働者が怒りの反撃にたっているのです。

ところが動労「本部」革マルは、当局と一体となつて国労の入浴闘争を「監視」「挑発」し、当局の尖兵となつてますます職場闘争の圧殺、国労、動労千葉解体攻撃を強めてきています。

「通信」の中で冒頭徳永は、処分、賃金カットの攻撃をはねのけて国労が原則的に入浴闘争を継続していることに対し、「実力で時間内に入浴したのは二月に鎖錠される前の三日間と、三月に一回、いまはたまに抗議集会をやるだけ」などと、自らの裏切りをタナにあげ、国労の闘いを嘲笑しているのです。

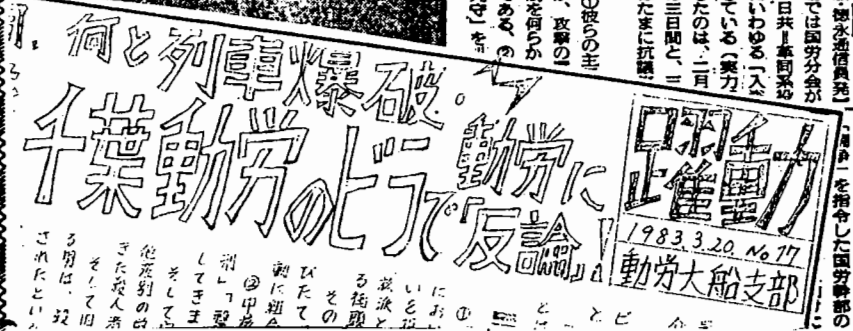
そのうえで第一に、「国労の既得権を守る闘いは、攻撃の質とたたかう側の体制を何らかえりみないもの」などと、例によつて「情勢は厳しい」だから今は闘うべきではない」といつて、必死になつて闘いを圧殺してまわっているのです。

第二に、「国労の闘いは、動労が当局に確約させた時間内十五分もダメにし、全面的入浴規制を許した」などと、国労がたたかうから当局の攻撃が厳しくなる「国労が悪い」と主張しています。

第三に、「国労の闘いが処分・労務管理強化を引き出した」というにいたつては、国労の闘い「挑発者」粉砕せよとのファシストの論理そのものではありませんか。

追いつめられた日共＝革同
「千葉動労」の手を借りて動労に「反論」

大船電車区の場合



現場からの報告
「東京・大船電車区通信員」

「実力闘争」は、動労が本気で闘った約十五分もダメにし、全面的な長時間闘争を許してしまつたという事実を、国労を指して「挑発者」の

二月以降、国鉄当局による全国的な時間内入浴禁止攻撃、実力入浴をたたかう国労組合員への処分、賃金カット攻撃をはねのけ、入浴闘争は長期的にたたかいかれていきます。

当局の既得権を全面的に剥奪し、労働組合の職場支配権を叩きつぶす

動労千葉・国労共闘を全国に拡大しよう

動労「本部」は三月三十日付動力車新聞に、「現場からの報告」なる動労大船支部革マル・徳永からの通信を載せています。徳永はその中で、国労の入浴闘争を口汚なくのしるとともに、国労大船電車区分会掲示板に「日刊動労千葉」が貼られたことに悲鳴をあげています。

動労革マルの反労働者性を暴露する

第四に、「動労は闘わないと攻撃するのは許さない」などと、動労革マルの裏切りに対する国鉄労働者の当然の弾劾に居直り、恫喝しているのです。

紙の弾丸。「日刊動労千葉」に悲鳴をあげる 動労革マルを掃しよう

さらに徳永は、入浴闘争における動労革マルの裏切りを弾劾した「日刊動労千葉」(第一二八五号)が、国労の分会掲示板に貼り出されたことに打撃をうけ、「動労攻撃一色の『千葉動労』のビラを貼った」「ついに暴力集団・中野一派の手を借りた」「分会はいつから千葉動労と共闘しているのだ」と悲鳴をあげています。

そもそも、わが動労千葉を暴力集団などというこの大船支部・徳永とはどういう男なのでしようか。徳永はかつて動労関東青年部長として、動労千葉の組合員に対し先頭で暴力を加えてきた悪質革マル分子です。

なによりも、一九七九年四月十七日、学生革マルの青竹部隊を先頭に津田沼電車区を武装襲撃し、動労千葉津田沼支部の片岡支部長(当時)らにテロ・リンチを加え、頭蓋骨々折などの重軽傷を負わせた下手人こそ徳永なのです。われわれは4・17武装襲撃の下手人・徳永、神保、村上らの大罪を絶対に見逃すわけにはいきません。

当局の手先になりさがつた労働者の敵・徳永「動労革マル」を国鉄から掃することなしに、闘いが一歩も前進しないことはいまやすべての国鉄労働者の共通の認識となっています。

組合員の皆さん。全国の国鉄労働者の皆さん。動労千葉、国労との完全共闘のもとで、断固入浴闘争を展開する千葉の闘いを全国に拡大しよう。同時に、重要な段階に突入した中江一北原選挙闘争勝利のために、全力をあげてたたかひぬこう。

4・12船橋へ!

中江選挙闘争勝利総決起集会・事務所開き
日時 四月十二日(火)十八時〜二十時
場所 船橋中央公民館 六階 大講堂

日刊動労千葉

83, 4, 11
No. 1312

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五(六)・(公衆電話)二七二〇七